

環境経営レポート2022



2022年度版

対象期間 : 2021年10月 ～ 2022年9月

発行日 : 2022年12月10日



株式会社CROSS

目 次

1	ご挨拶	1
2	社是と経営理念	2
3	経営ビジョンと経営目標	3
4	事業概要	4
5	SDGsに貢献する事業活動	5
6	組織の概要	6
7	環境経営方針	7
8	環境経営実施体制	8
9	環境経営目標・環境経営計画の実績・取組結果と その評価並びに次年度の環境経営目標と環境経営計画	9 ~ 11
10	想定CO2排出量に対するCO2削減実績推移	12
11	次年度環境経営目標	13
12	環境関連法規等遵守状況確認・評価並びに 違反訴訟などの有無	14
13	代表者による全体の評価と見直し・指示	15
14	職場における環境活動	16
15	ステークホルダーとの交流	17

1. ご挨拶

私が環境問題に取り組まなければならないと思ったきっかけは、何気なくテレビを見ている時でした。それは海洋プラスチック問題を取り上げた番組でしたが、そこに映し出されたのは、はるか遠くの無人島の浜に打ち上げられた大量のペットボトル、そしてウミガメやアザラシの体内から大量のビニール袋が出てきた映像、もっともショックであったのが廃棄された漁網が長い間海に残り続け、その漁網に絡まったウミガメや海鳥などの生き物が溺死した映像でした。そのウミガメが何年も苦しみながら海を彷徨い、最終的に命を落とす映像に、悲しみ以上に自分も加害者の一人なのではないかという思いを抱きました。コンビニの普及により大量のレジ袋が生産され、そのレジ袋も用が済んだら当たり前のようにすぐ廃棄されてしまう。飲み物の多くはペットボトルで売られ、飲んだらゴミ箱へポイ。その先のことは考えておりませんでした。ウミガメの映像を見るまでは・・・

弊社にはこれからの会社を担っていく若い従業員が多く在籍しております。皆、真面目に一生懸命働いておりますが、環境問題に対してはさほど興味を示していないように感じられました。このような現実直面したことで「私が率先して働きかけをしなくては」という強い衝動に駆られ、エコアクション21に取り組むことを決めました。

弊社の取り組みのモットーは“できることからやっていく”ということです。難しく考えず、まずは環境問題を一人一人が意識することから始めています。

活動内容はとてもシンプルです。

本社事務所では

- 1.毎日ゴミの分別をしっかりと行う…完全廃棄処理ゴミとリサイクルごみの分別
- 2.無駄なゴミを出さない…ごみの収集を毎週月・水・金に定めその日のゴミの量を計測し、前週と比較することでゴミを減らす
- 3.昼休憩時の消灯…限りある資源を大切に使う

現場では

- 1.工事で使用する材料の選定においては原料を配慮し決定する
- 2.再利用できる材料は適材適所で使用する
- 3.廃棄物の分別をしっかりと行い所定の場所・方法で廃棄する

他にも身近な所でできる細かな活動を実施しておりますが、肝心なことは従業員一人一人が環境問題に関心を持ち、自らが毎日何らかの環境活動に携わっていることを実感することです。建築工事に携わり現場で資材を扱う私たちは特に環境問題に対し当事者意識をもって取り組むべきだと考えております。

これからも社内のエコアクショングループのメンバーを中心に、地道にコツコツと活動してまいります。

代表取締役 佐野 勝彦

2. 社是と経営理念

社 是

「感動」「感激」「感謝」

すべてのパートナーと感動・感激・感謝を共有する。

経 営 理 念

全従業員の物心両面の幸福を追求し、全従業員の夢をかなえる。

社業を通じて、社会と業界の進歩発展に貢献する。

現状に甘んじることなく、創意工夫と努力で、一步一步前進する。

< 行 動 基 準 >

- 1 挨拶の励行
- 2 創意工夫と努力を惜しまない
- 3 6S（整理・整頓・清潔・清掃・躰・作法）の実行
- 4 約束した時間を守る
- 5 業務はPDCAサイクルの活用により進める
- 6 報・連・相の徹底

3. 経営ビジョンと経営目標

経営ビジョン

社会の課題とニーズに対応
できる柔軟で強い事業体制

- 社会と環境の課題解決に貢献できる事業展開
SDGs目標に対応した事業
- 環境負荷を削減する事業活動
- 顧客満足が得られる設備・施工・サービスの提供

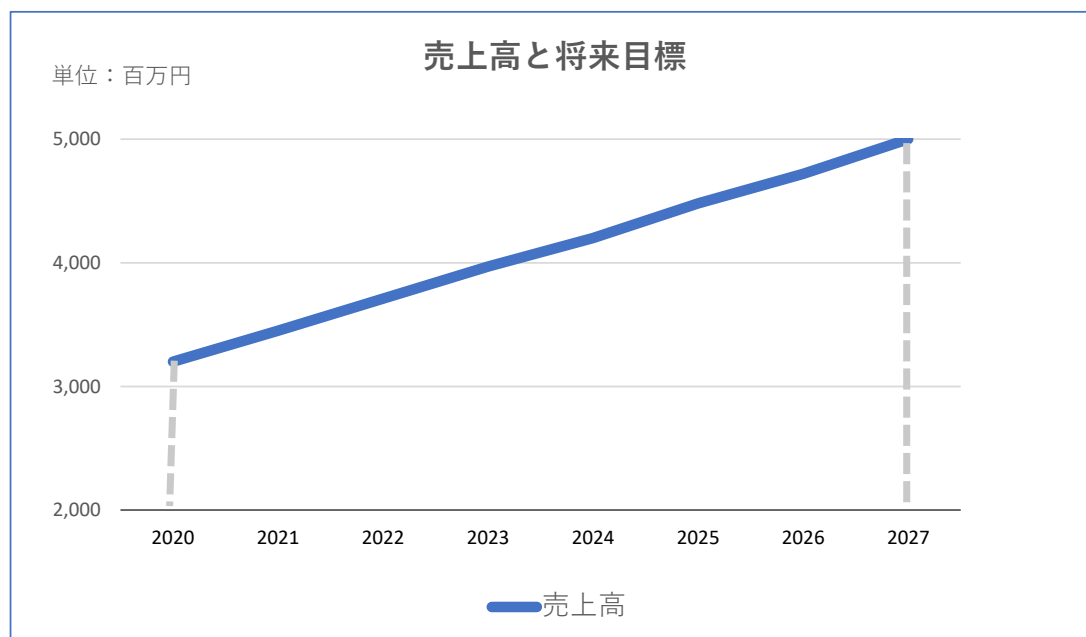
持続的成長が可能な経営力
と経営基盤の強化

- 営業体制の強化と技術力の向上
- 業務プロセス改善と効率向上
- 人財の確保と若手社員の育成
- 社会及び顧客に信頼される企業価値向上

従業員が生き生きと働きの
ある企業風土づくり

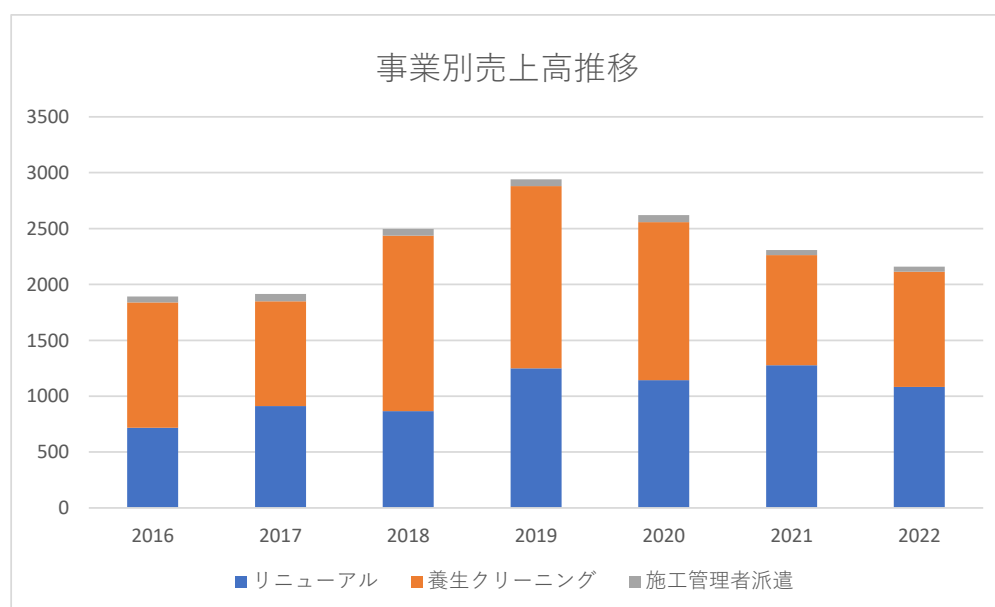
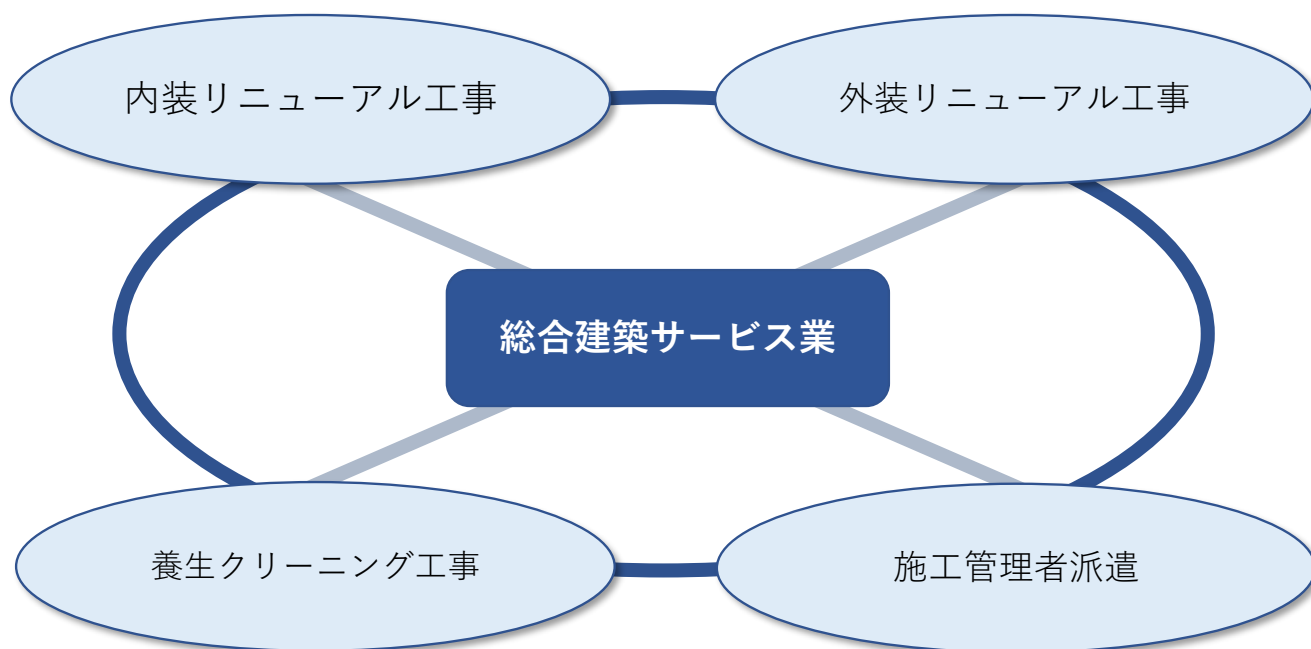
- 社内コミュニケーションの活性化
- 働き方改革への取組み
- 従業員の力量とモチベーションの向上
- 人事評価システムの見直し実施

経営目標



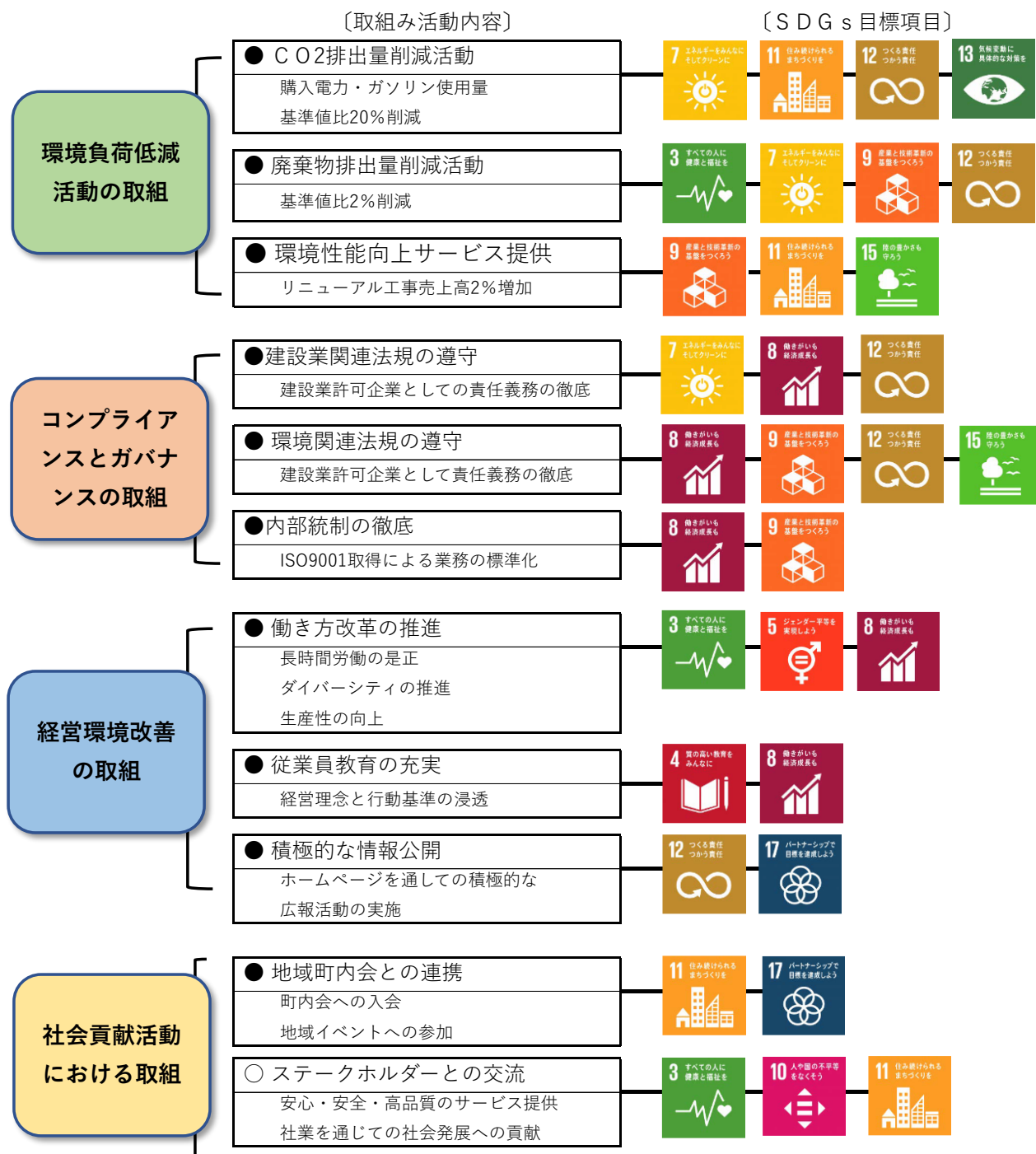
4. 事業概要

弊社の事業概要



5. S D G s に貢献する事業活動

弊社は、S D G s（持続可能な開発目標）などグローバルな社会課題にも目を向け、事業活動を通して、その解決に少しでも貢献できるように取り組んでいます。



※〔凡例〕 ●印一既に取組中 ○印一今後取組予定

6. 組織の概要

■ 社名・代表者名・本社所在地

社名 株式会社CROSS
 代表者名 代表取締役 佐野 勝彦
 本社所在地 〒103-0004 東京都中央区東日本橋二丁目24番14号

■ 会社設立・資本金

設立年月日 1972年6月1日 資本金 2,000万円

■ 事業内容

内装リニューアル工事、外装リニューアル工事、養生クリーニング工事、施工管理者派遣

■ 環境管理責任者・担当者・連絡先

環境管理責任者 小林 亮 担当者 関根 一馬
 連絡先 所在地 〒103-0004 東京都中央区東日本橋二丁目24番14号
 電話 03-5829-6415 F A X 03-5829-6417
 電子メール kobayashi@cross2018.co.jp sekine@cross2018.co.jp

■ 事業所・対象範囲（認証登録範囲）

事業所名	所在地	業務内容	対象範囲
本社	東京都中央区東日本橋二丁目24番14号	営業・工事・管理	○
倉庫	東京都中央区東日本橋二丁目12番5号	倉庫	○

■ 事業の規模

	単位	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
年 商	百万円	2,498	2,941	2,621	2,308	2,159
従業員数	人	79	81	83	84	81
床面積（本社）	m ²	293	293	293	293	293
床面積（倉庫）	m ²	125.58	125.58	125.58	125.58	125.58

■ 事業のための許可取得状況

許可名称	許可番号	許可年月日	有効年月日
建設業許可	東京都知事（特-2）第39110号	令和2年10月21日	令和7年10月20日
労働者派遣事業許可	厚生労働大臣許可 派13-311933	平成30年12月1日	令和8年11月30日

■ 有資格者

資格名称	人数	資格名称	人数
二級建築士	1名	1級建築施工管理技士	10名
1級管工事施工管理技士	1名	2級建築施工管理技士	15名

7. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

[経 営 理 念]

- 全従業員の物心両面の幸福を追求し、全従業員の夢をかなえる。
- 社業を通じて、社会と業界の進歩発展に貢献する。
- 現状に甘んじることなく、創意工夫と努力で、一步一步前進する。

[環 境 方 針]

株式会社CROSSは、上記経営理念のもと経営における環境への取組みの重要性を強く認識し、当社の建物リニューアル工事、養生・クリーニング工事等の事業において環境負荷の少ない活動並びに環境に配慮した工事・サービスの提供に取り組むことにより、低炭素社会・循環型社会の形成に貢献すると共に当社の将来に向けた企業価値向上を目指します。

環境への取組みに当たっては、以下の重点分野に基づき全従業員参加により推進すると共に環境関連法規等を遵守し、環境経営の継続的改善を図ることを誓約します。

[環 境 へ の 取 組 の 重 点 分 野]

1. 二酸化炭素排出量削減
 - ① 事業所内における電気使用量の削減に努めます。
 - ② 工事現場における節電に心掛けます。
 - ③ 車輛等の燃料使用量削減に努めます。
2. 廃棄物排出量削減
 - ① 事業所から発生する一般廃棄物の削減に努めます。
 - ② 建設工事及び事務所からの産業廃棄物の排出を抑制すると共に適正処理を行います。
 - ③ 資源の有効利用と使用済資源のリサイクルを推進します。
3. 水使用量削減
 - ① 事業所内の水使用量の削減に努めます。
 - ② 建設工事に係わる水使用量の抑制に心掛けます。
4. 化学物質量の削減（管理）
 - ① 化学物質を使用する場合は、適切に使用量管理を行います。
5. 自らが施工・販売・提供する製品・設備・工事等の環境性能向上及びサービスの改善
 - ① お客様に環境に配慮した工事の提案をします。
 - ② 環境配慮型工事の受注拡大に取組みます。
 - ③ 環境コミュニケーション促進により従業員の意欲向上及び企業の信頼性向上を目指します。

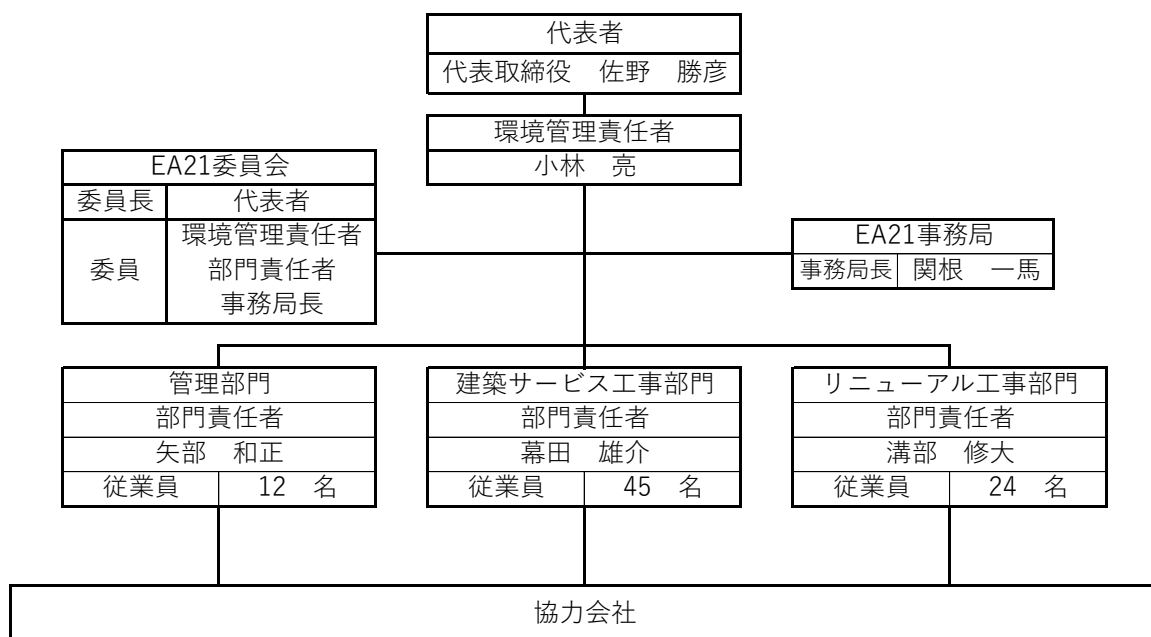
この環境方針は、全従業員に周知すると共に、一般にも公開します。

制定： 2016 年 9 月 1 日
改訂： 2019 年 10 月 1 日

株式会社CROSS
代表取締役 佐野 勝彦

8. 環境経営実施体制

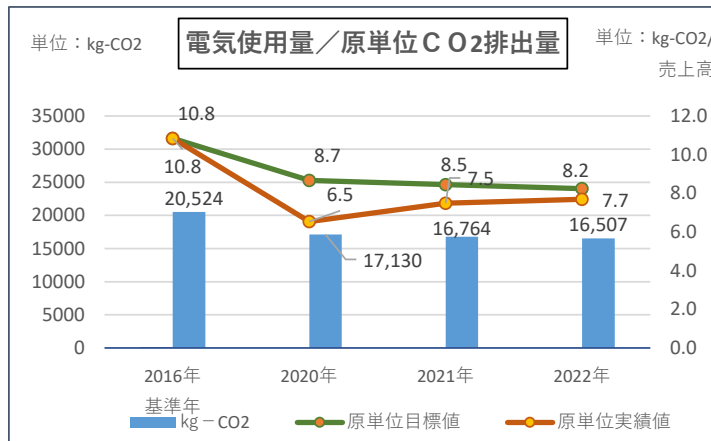
環境経営システム実施体制図



役割、責任及び権限表

対象者	役割、責任・権限
代表者	・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする ・環境経営に関する方針（環境経営方針）を定め、誓約する ・効果的で必要十分な実施体制を構築し、役割、責任及び権限を定め全従業員に周知する ・環境経営に必要な資源（人・もの・資金・情報）の用意する ・環境経営全体の取組状況を評価し、総括的見直し、必要な指示を行う
環境管理責任者	・環境経営目標、環境経営計画の作成・承認及び社内周知 ・全社組織へのEA21活動実施の統括 ・EA21活動結果全体のとりまとめ承認及び代表者への報告 ・内外環境コミュニケーションへの対応 ・問題点の是正処置の統括
EA21委員会	・環境経営方針等決定事項の社内伝達 ・EA21活動に関する協議、意見交換
EA21事務局	・環境管理責任者の補佐 ・EA21活動に関する事務
部門責任者	・環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画内容の部門内周知 ・部門内EA21活動の実施指揮及び部門内EA21活動結果のとりまとめ ・問題点の是正処置、予防処置の実施
工事部責任者	・工事施工に当たっての環境配慮の徹底 ・工事における節電、節水及び適正な廃棄物処理
従業員	・環境経営目標、環境経営計画等に基づくEA21活動の実施 ・EA21活動に関する提案

9. 環境経営目標・環境経営計画の実績・取組結果とその評価並びに次年度の環境経営目標と環境経営計画

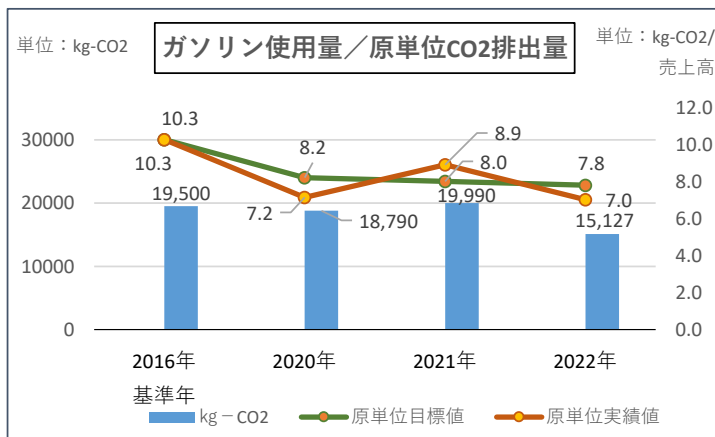


項目		2016年 基準年	2020年	2021年	2022年
目 設 標 定	基準比削減%	—	20	22	24
	原単位目標値	10.8	8.7	8.5	8.2
実 績 値	使用量kwh	43,300	36,140	35,368	34,825
	kg-CO ₂	20,524	17,130	16,764	16,507
	売上高	1,893	2,621	2,238	2,148
	原単位実績値	10.8	6.5	7.5	7.7
達成評価		—	○	○	○

・売上高単位：百万円 ※排出係数 0.474

・原単位：kg-CO₂/売上高

環境経営計画/取組内容	対象範囲	取組結果と評価	評価	次年度の環境経営計画
①昼休みの消灯 ②残業時、点灯エリアの制限 ③PC未使用時の消灯 ④退勤時のPC消灯 ⑤夏季28℃、冬季20℃	事務所	取組内容に対して継続して実施することが出来ている。電気使用量も継続して削減できた。	○	①昼休みの消灯 ②残業時、点灯エリアの制限 ③PC未使用時の消灯 ④退勤時のPC消灯 ⑤夏季28℃、冬季20℃

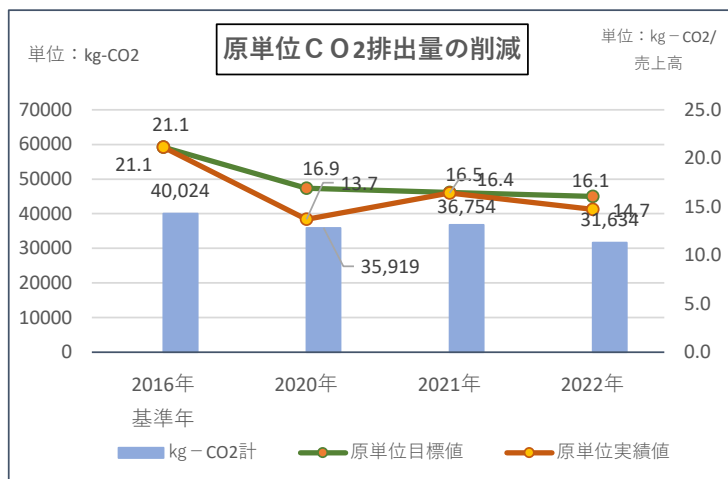


項目		2016年 基準年	2020年	2021年	2022年
目 設 標 定	基準比削減%	—	20	22	24
	原単位目標値	10.3	8.2	8.0	7.8
実 績 値	使用量(ℓ)	8,405	8,099	8,617	6,520
	kg-CO ₂	19,500	18,790	19,990	15,127
	売上高(百万)	1,893	2,621	2,238	2,148
	原単位実績値	10.3	7.2	8.9	7.0
達成評価		—	○	×	○

・売上高単位：百万円 ※排出係数 2.32

・原単位：kg-CO₂/売上高

環境経営計画/取組内容	対象範囲	取組結果と評価	評価	次年度の環境経営計画
①エコドライブの徹底 ②車両別運行計画の徹底	現場	昨年と比較しガソリン給油量を大幅に削減することができた。引き続きエコドライブの推奨と使用状況の可視化を図る	○	①エコドライブの徹底 ②車両別運行計画の徹底

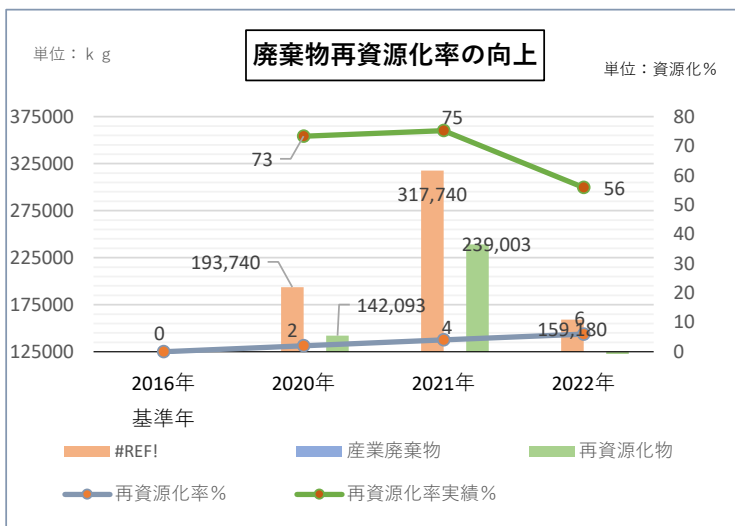


項 目		2016年 基準年	2020年	2021年	2022年
目 設 標 定	基準比削減%	—	20	22	24
	原単位目標値	21.1	16.9	16.5	16.1
実 績 値	電気	20,524	17,130	16,764	16,507
	ガソリン	19,500	18,789	19,990	15,127
	kg-CO ₂ 計	40,024	35,919	36,754	31,634
	売上高	1,893	2,621	2,238	2,148
	原単位実績値	21.1	13.7	16.4	14.7
目標達成評価		—	○	○	○

・売上高単位：百万円

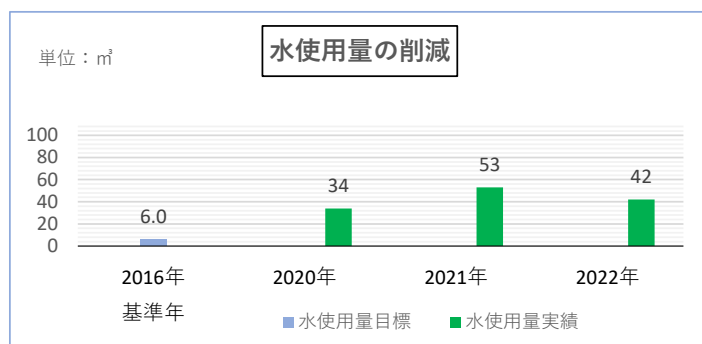
・原単位：kg-CO₂/売上高（百万円）

環境経営計画/取組内容	対象範囲	取組結果と評価	評価	次年度の環境経営計画
①昼休みの消灯 ②夏季28℃、冬季20℃ ③エコドライブの徹底	事務所	取組内容に対して継続して実施することが出来た。 電気・ガソリン使用量も継続して削減できた。	○	①昼休みの消灯 ②夏季28℃、冬季20℃ ③エコドライブの徹底



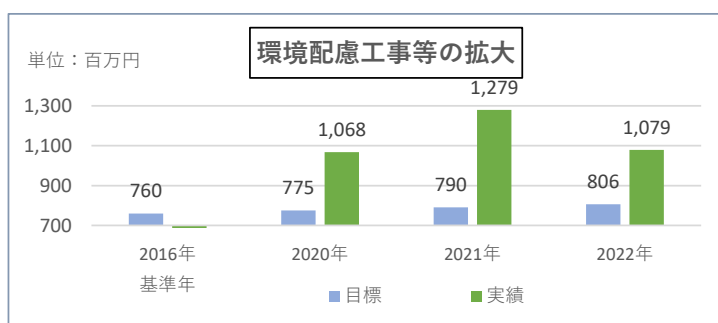
項 目		2016年 基準年	2020年	2021年	2022年
目 標	基準比向上%	—	2	4	6
	再資源化率%	0	2	4	6
実 績 値	産業廃棄物		193,740	317,740	159,180
	再資源化物		142,093	239,003	88,948
再資源化率実績%			73	75	56
目標達成評価		—	○	○	○

環境経営計画/取組内容	対象範囲	取組結果と評価	評価	次年度の環境経営計画
①コピー用紙の両面使用 ②消耗品の有効利用 ③紙類の分別収集によるリサイクル ④リニューアル工事に伴う産廃物の分別及び排出量の把握 ⑤マニフェスト交付による適正処理	事務所	排出量の把握はできている。	○	①コピー用紙の両面使用 ②消耗品の有効利用 ③紙類の分別収集によるリサイクル ④リニューアル工事に伴う産廃物の分別及び排出量の把握 ⑤マニフェスト交付による適正処理



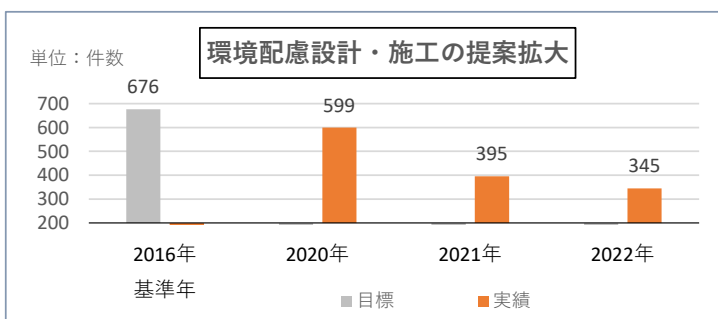
項 目		2016年 基準年	2020年	2021年	2022年
目 標	使用量把握	—	—	—	—
	水使用量目標	6.0	—	—	—
実 績	水使用量実績	—	34	53	42
目標達成評価		—	○	○	○

環境経営計画/取組内容	対象範囲	取組結果と評価	評価	次年度の環境経営計画
①生活用水の節水（倉庫分） ※事務所分は共益費負担	倉庫	無駄な水の使用を抑えるよう注意喚起したことで、使用量を削減することができた。	○	①生活用水の節水（倉庫分） ※事務所分は共益費負担



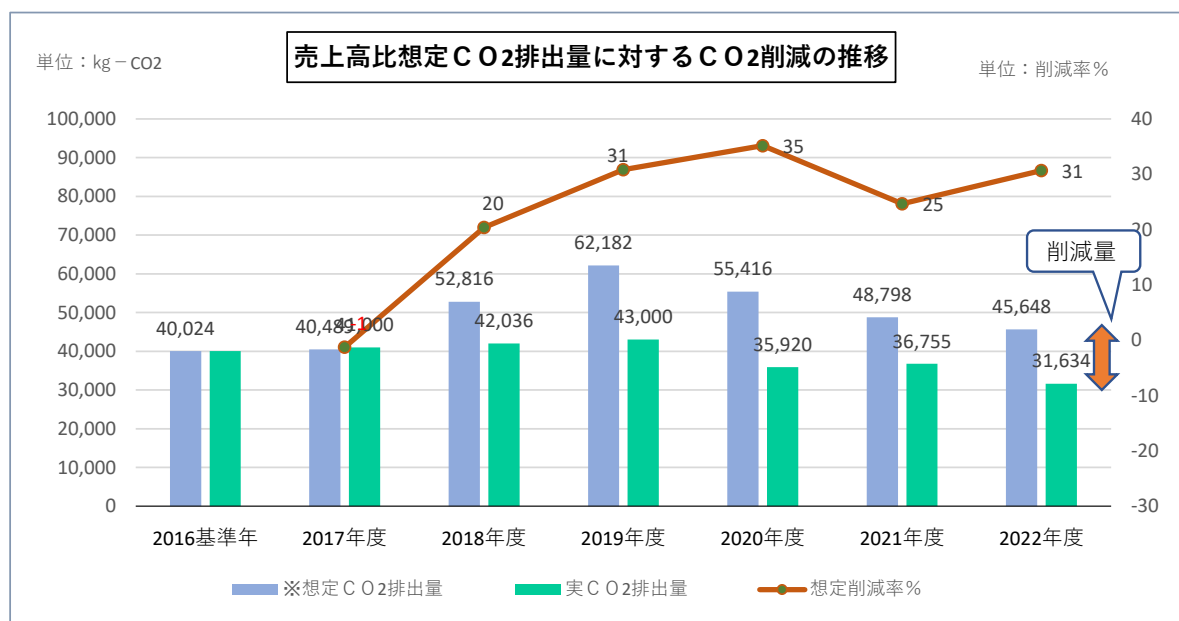
項 目		2016年 基準年	2020年	2021年	2022年
目 標	受注増加率	—	2	4	6
	目標	760	775	790	806
実 績	実績	—	1,068	1,279	1,079
目標達成評価		—	○	○	○

環境経営計画/取組内容	対象範囲	取組結果と評価	評価	次年度の環境経営計画
①環境配慮公共工事の受注 ②環境配慮民間工事の受注	現場	昨年度との比較では減少となったが、目標を達成することが出来た。	○	次年度も継続して受注高の増加を目標にする。



項 目		2016年 基準年	2020年	2021年	2022年
目 標	提案件数把握	—	—	—	—
	目標	676	—	—	—
実 績	実績	—	599	395	345
目標達成評価		—	○	○	○

環境経営計画/取組内容	対象範囲	取組結果と評価	評価	次年度の環境経営計画
環境配慮工事の受注 ①再生資材利用、②省エネ化設計 ③省エネ化施工、④長寿命化工事 ⑤断熱強化工事	現場	環境配慮工事の提案件数は減少した。しかし1件あたりの金額が増加しており、受注高は増加している。	○	次年度も継続的に環境配慮工事の提案を行う。

10. 想定CO₂排出量に対するCO₂削減実績推移

年度	2016基準	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	1,893	1,915	2,498	2,941	2,621	2,308	2,159
※想定CO ₂ 排出量	40,024	40,489	52,816	62,182	55,416	48,798	45,648
実CO ₂ 排出量	40,024	41,000	42,036	43,000	35,920	36,755	31,634
想定CO ₂ 削減量	0	-511	10,780	19,182	19,496	12,043	14,014
想定削減率%		-1	20	31	35	25	31

※想定CO₂排出量は、基準年以降削減努力しなかった場合に売上高に比例して想定した

1 1. 次年度環境経営目標

環 境 経 営 目 標								
環境経営目標項目				基準年度	(中期)年度目標値			
環境重点分野計	環境経営目標項目			2016	2023	2024	2025	
				年度実績値	年度	年度	年度	
	原単位指標							
	売上高	百万円	1,893	—	—	—	—	
1	(目標設定率)			使用量 (排出量)	基準値比 26 %削減	基準値比 28 %削減	基準値比 30 %削減	
二酸化炭素排出量の削減	(1)購入電力使用量の削減	使用量	kwh	43,300	—	—	—	
			kg-CO2	19,572				
		売上高 原単位CO2	kg-CO2 /百万円	10.34	7.65	7.44	7.24	
		使用料金	円		—	—	—	
	※購入電力CO2排出係数は東京電力2021年度最終排出係数		使用量	kwh	使用量の把握	使用量の把握	使用量の把握	
		kg-CO2	0					
	(排出係数)	0.452	使用料金	円	—	—	—	
	(2)ガソリン使用量の削減	使用量	L	8,405	—	—	—	
			kg-CO2	19,500				
		売上高 原単位CO2	kg-CO2 /百万円	10.30	7.62	7.42	7.21	
		使用料金	円		—	—	—	
	(排出係数)		2.32	使用料金	円	—	—	—
	(3)施設環境等電気使用量の削減		電気使用量	kwh	0			
		kg-CO2	0.00	使用量の把握	使用量の把握	使用量の把握		
	(排出係数)		0.452	使用料金	円	—	—	—
	二酸化炭素排出量 合計			kg-CO2	39,071	—	—	—
原単位二酸化炭素排出量の削減			kg-CO2 /百万円	20.64	15.27	14.88	14.45	
(CO2排出量合計/売上高)			使用料金合計	円	0	—	—	
事業所数におけるCO2削減率				—	—	—	—	

環 境 経 営 目 標								
環境経営目標項目				基準年度	(中期)年度目標値			
環 境 重 点 管 理 分 野 計	環境経営目標項目			2016 年度 実績値	2023 年度	2024 年度	2025 年度	
	原単位指標							
	売上高	百万円		1,893	—	—	—	
2	(目標設定率)				基準値比 6 %削減	基準値比 6 %削減	基準値比 6 %削減	
廃棄物排出量の削減・再資源化	一般廃棄物	燃えるゴミ	kg	389	479	479	479	
		不燃ゴミ		121				
		その他						
		計		510.0				
		処置費用		—				—
	産業廃棄物	廃合物	kg	38,610	排出量の把握	排出量の把握	排出量の把握	
		廃プラ		5,075				
		廃電光灯		450				
		廃プラその他		89,280				
		計	133,395					
	処置費用	円		—	—	—		
	再資源化物	(一腐)	資源ごみ	kg	850	リサイクル量の把握	リサイクル量の把握	リサイクル量の把握
		(産廃)	特定燃焼燃料		50,190			
			金属くず		38,405			
			廃プラ					
		計		89,445				
	売却収入	円		—	—	—		
再資源化比率の向上			%	40.0	基準値比 8 %削減	基準値比 10 %削減	基準値比 12 %削減	
					48	50	52	
環境経営目標項目				年 度	2023	2024	2025	
3	(目標設定率)			直近2年の平均	基準値比 6 %削減	基準値比 6 %削減	基準値比 6 %削減	
水使用量の削減	水使用量	水使用量	m3	48	45.1	45.1	45.1	
		使用料金	円					
4	PRTR法該当化学物質名		kg		使用量の把握	使用量の把握	使用量の把握	
計		kg		0				
5	(1)環境配慮工事等の拡大		百万円	売上高	基準値比 8 %増	基準値比 10 %増	基準値比 12 %増	
				760	821	836	851	
	(2)環境配慮設計・施工の提案		件	300	324	330	336	
	(3)環境コミュニケーションの活性化	従業員とのコミュニケーション	回	12	12	12	12	
			社外関係者との情報交換	回	300	336	336	336

12. 環境関連法規等遵守状況確認・評価並びに違反訴訟などの有無

■ 関連法規等の遵守状況

法律名	要求事項	当社が遵守すべき事項	遵守状況
廃棄物処理法	廃棄物保管場所の表示	①保管基準—飛散、流出等防止対策 ②保管場所の表示板（60×60cm以上） ・種類・管理者の名称、連絡先、保管可能量	○
	産廃収集運搬・処分事業者との二者間委託契約	①契約収集運搬業者 ②契約中間処分業者	○
	産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付	①マニフェストの交付 ②マニフェスト返送日を確認、保管	○
	年間マニフェスト交付状況報告	前年度交付分を当年6月までに報告 埼玉県	○
	建設業元請事業者の産業廃棄物処理責任	建設工事に伴う廃棄物はすべて元請事業者が排出者として責任処理	○
建設リサイクル法	特定建設資材は再利用を促進	・コンクリート ・コンクリートと鉄の資材 ・アスファルト ・木材	○
P R T R 法	第一種指定化学物質の排出量及び移動量を把握	ベンゼン、トルエン、キシレン等 使用量の把握	○
省エネ法	エネルギー使用する事業者の責務	エネルギー使用の合理化及び電気の需要の平準化に務める。	○

■ 違反訴訟の有無

当社は、上記法令等の違反及び訴訟はありません。

13. 代表者による全体の評価と見直し・指示

項 目	見直し内容
見直し実施日	2022 年 12 月 10 日 (■定期見直し □臨時見直し)
見直し対象期間	2021 年 10 月 1 日 ~ 2022 年 9 月 30 日
出 席 者	代表者、環境管理責任者
前回の指示事項 への取組結果	
代表者による評価	【総括評価】 (環境経営全体の取組状況及びその効果) 環境経営レポート2022から考査すると、CO2排出量は継続削減傾向にあり良好である。このことは、昼休みの消灯や残業時間削減等の取り組みが各社員に根付いてきた結果が数値に表れている。 また、21年度から明らかに改善された数値としては、ガソリン使用量が削減された事である。これは、各部門の車両使用予定をスケジュールシステムで共有・可視化したことにより、搬入出にムダが省かれた事が挙げられると思われる。 業務効率を改善し、且つ、CO2削減に結びつけることで環境経営を強固なものに作り上げていく。 【個別評価：成果があり、更に発展強化させる点】 車両使用状況の可視化、ペーパーレス化の推進、業務改善による労働時間の削減。 【個別評価：改善又は努力を要する点】
代表者による見直し結果 に基づく変更の必要性及 び指示事項	
	変更の有無 指示内容
	【環境経営方針】 □有 ■無
	【環境経営目標及び環境経営計画】 □有 ■無
	【実施体制】 □有 ■無
	【その他】 □有 ■無

14. 職場における環境活動

省エネルギー活動



▲事務所内における省エネルギー啓発ポスター掲示状況

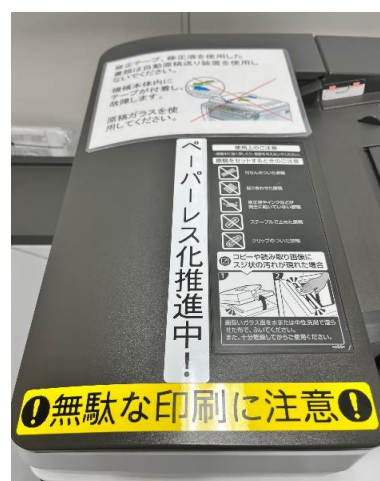


廃棄物の分別収集



▲廃棄物の分別収集状況

紙削減の啓発



▲ペーパーレス化推奨活動

15. ステークホルダーとの交流

安全衛生管理徹底大会



▲協力会社を集めての安全衛生管理徹底大会の実施状況

地域貢献活動



▲町内会参加による幟旗設置状況